

令和4年度「ふるさと夢未来講演会」実施報告

学校教育課 教育魅力化推進係

1. 日時 令和4年12月2日（金）14:00～15:30

2. 会場 あすてらす・ホール

3. 講師 国立研究開発法人海洋研究開発機構
海洋生物環境影響研究センター：
センター長 藤倉 克則氏



【演題】『深海生物や
海洋プラスチック問題から
教えられたこと』

4. 参加者 会場参加 140名
(大田高校2年生・大田一中代表) 【講演風景】
オンライン参加 320名
(大田高校1年生・大田一中2年生・大田二中3年生)
『当日参加 460名』+ (録画視聴 300名) = 【参加者総数 760名】

5. 進行 大田高校生徒会役員5名(司会・質疑・閉会挨拶を担当)
・講演後、会場参加生徒とオンライン参加生徒からの質疑応答の時間を設定
・高校生の活躍の場を確保するとともに中・高生相互の交流を深める
(質疑は会場参加者だけでなくオンライン参加校からも積極的参加が得られた)

6. 感想(提出いただいた生徒のものを部分的に抜粋)

○一中2年生：Aさん

地球には2つのタイプの生態系があることや、深海生物についていろんなことが知れました。ゴミの多いアジアから日本へ黒潮が流れていて、日本の周りにプラゴミが集まったり、プラスチックによる汚染が進み、生態系や人への影響が深刻になったりなどの、海洋プラスチック問題についても詳しく学ぶことができました。SDGsや海洋保護区の指定など、いろいろな取り組みが行われているけど、やっぱり一人一人が意識して取り組まないといけないと思いました。私は藤倉さんみたいに、まだ夢中になれることはないけど、将来は楽しくてやりがいのある仕事をしたいです。

○一中2年生：Bさん

藤倉さんは自身がワクワクすることを仕事にして研究していてすごいと思いました。深海の調査を通して発見したことをどんどん深めていき、学んでいく姿を私も真似したいと思いました。深海の生物について、2つの生態系があることや、プラスチックが人々や生態系にもたらす影響を知ることができ、海洋プラスチック問題について深く考えるきっかけになりました。深海生物やプラスチック問題から、自然との共存の大切さを学ぶことができよかったです。

○一中2年生：Cさん

深海生物は奥が深い生物だと思いました。そもそも深海生物と浅海生物に分かれていることを知らなかったのが驚きました。生態系と人間が共存することが大切だと思いました。プラスチックが海の生物に影響を与えるのは知っていたけど、ここまで深刻だと思いませんでした。今日のことから、自然を守りつつ利用していくことを学びました。次の世代にきれいな海を残すために、今できることをしていきます。

○一中2年生：Dさん

光合成を必要としない生態系や、生物の進化のメカニズムを解き明かすヒントが深海にあるなど、思いもしない内容ばかりで驚きがあった。海洋プラスチックについては、日本にプラスチックが集まってきていること、化学物質汚染が深刻であり、生態系に悪影響を及ぼしていることなど、便利さの副作用が起きていると感じた。ある一つのことに熱中し、目標を立てた後、それに向かってたくさんのことを試し、学ぶことで素晴らしい結果がついてくると、藤倉さんの講演を聞いて感じた。

○一中2年生：Eさん

一番心に残ったことは、プラスチック問題は私たちの一つ一つの行動で少しでも防ぐことができるということです。「人は他の生物を利用しないと生きていけない」と聞いて、利用するためには生き物にどういったつかい方をするのかなど、たくさん考えられるようになりました。深海6500についても知らなかったけど、実際どのように調査しているかとても勉強になりました。

○二中3年生：Aさん

今まで知らなかった深海のことや、プラスチックが生物にどのくらい影響をおよぼすのか知ることができました。私たちは他の生物に頼って生活しているため、利用することと守ることのバランスを考えなければ、私たちの生活ができなくなることもわかりました。プラスチックが海に捨てられてしまい、そのプラスチックが99%はどこにあるのかわからないのには、とても驚きました。わかっている1%の量・重さもとても大きく、私たち人間がそれだけプラスチックを捨てているということは、その分、海の生き物に悪影響を与え、その海の生き物を食べる私たちにも悪影響が出てしまうと知りました。自分たちが便利な生活をするために作られたプラスチックが、逆に自分たちを苦しめてしまう可能性があるため、自然も人間も安全な社会にしなければいけないと思いました。まずは自分が、小さなことでも考えて動いていく必要があると感じました。

○二中3年生：Bさん

びっくりしたことが2つありました。1つ目は世界の海の平均の深さは3800mで深海と呼ばれるところは200m以上ということに驚きました。生き物が暮らしているほとんどが深海で、まだ知られていないことがたくさんあるということがわかりました。2つ目は、海の中のプラスチックゴミは2500万トンで、その99%がどこに行ったか分からなくなっているということです。また藤倉さんは、自分のやりたいことをやっておられて、だからそんなに深海のことについて調べることや考えることができるんだなと思いました。自分も、やりたいことや興味があることがあるので、それを自分の職業にできるようにしたいです。

○二中3年生：Cさん

心に残ったのはマイクロプラスチックの問題です。5mmほどのゴミでも、人間が口にしたらと想像するだけでも怖いです。海は広いし、全てのマイクロプラスチックの回収はとても困難だと思います。自分も小学4年生の時、海辺のゴミ拾いと地引網をして、ゴミはたくさん出たし、海からはプラスチックのゴミやビニール袋などのゴミがたくさん出てきたことがありました。だから、藤倉さんが発言されていたことは心にしみました。そして自分ができることは何があるかなと、講演を聞きながら考えました。たくさんのが今の自分にはでき、自分の将来のためにも、世界や日本のみんなにも身近なことで役に立ちたいと思いました。自分の夢に向かって何をすればいいか、わかった気がしました。

○二中3年生：Dさん

深海やプラスチックのことについて、たくさん学ぶことができました。また藤倉さんから、たくさんの人とのチームワークが大切だということや、共存していくことの大切さを学びました。自分がワクワクすることを見つけて、ワクワクすることをして生きる藤倉さんは、幸せそうだなと思いました。私もこれから生きていくなかで、ワクワクすることを見つけていきたいです。プラスチックも正しい使い方、環境問題を減らしていけたらと思います。今日は、藤倉さんのお話を聞いて良かったです。将来は、社会に役立つ仕事につきたいです。

○二中3年生：Eさん

普段、深海や、プラスチックが深海に与える影響などを教えてもらうことはないのですが、新しいことだらけで、すごくおもしろかったです。研究する上で多くの発見があることがわかり、とても楽しそうだと思います。多くの資源や生物がいて、まだわかりきっていないことがたくさんある海はすごく大切に、これからどうしていくかがすごく大切だとわかりました。とても便利なプラスチックなのに、使用後どうするかで悪者になってしまうとわかりました。プラスチックの10%しかリサイクルされていないことが残念でした。手遅れになる前に行動していきたいです。すごく小さいプラスチックも海の生き物には良くて、人にまでも悪影響があると知って怖くなりました。人にとって良くて、他の生物にとっても良いことを探してみたいです。多くのことに挑戦して、自分が選択できることをふやしていきたいです。どんなことにも全力で取り組んで、見落とすことがないようにしたいと思いました。多くの発見があつて、とてもおもしろかったです。

○二中3年生：Fさん

心に残ったことは、チームワークやたくましさです。チームワークが良くないと、ちゃんと安全に調査することができないと聞いて、すごく大切なことなんだと思いました。海洋プラスチック問題では、二酸化炭素による温暖化と一緒に、プラスチックによる自然破壊やバランスを崩すことは簡単にできるから、一人一人が自然の資源を守ったりしなければいけないと思いました。まず、生物のことを知ったりすることが大切だと思いました。

○二中3年生：Gさん

深海生物について全く知らなかったし、難しいことも多かったけど、貴重なお話を聞くことができてとてもよかったです。自分が何をしたいのか、そして自分のしたいことを仕事としている藤倉さんはすごいと思いました。また、何かをするためにはチームワークが大切だし、ワクワク感を持っていることも大切だと学ぶことができました。夢や将来に向けて、自分のしたいことにたくさん挑戦することが大切だと思いました。講演で学んだことを生かしながら、将来に向けて考えていきたいと思いました。

○二中3年生：Hさん

私は海の近くに住んでいますが、講演でのお話は初めて聞いたものばかりでした。まず、太陽や植物に頼らない生物がいることに驚きました。胸毛でバクテリアを育てるエビや、クジラの骨の中にあるホネクイハナムシ。厳しい環境で工夫して生きる生物のたくましさにも勇気をもらいました。そんなユニークな生き物たちに、私たち人間が無責任に捨てているプラスチックが、予想以上に深刻な問題でした。プラスチックは今の生活に欠かせない絶対必要なものですが、便利さには副作用があり、人間は自然の恩恵を受けて生きていることを忘れてはいけないのだと思いました。藤倉さんの、あまり経験のない分野でも、興味があれば飛び込んでいく、そんな姿勢がかっこいいと思います。私も自分がワクワクすることを見つけたいです。

○二中3年生：Iさん

深海生物は人にとって重要であるということと、プラスチックは人にとって全て有害であるわけではないということが心に残りました。深海生物の調査について、見たことのない生き物がいてびっくりしました。またプラスチック問題から、ペットボトルやレジ袋などが深海にたくさん沈んでいることがわかりました。藤倉さんのお話から、自分が好きなことを職業にすることも良いと思いました。私はまだワクワクすることが見つかっていないので、これからたくさん経験して見つけていきたいです。深海生物を守り、人と生き物が生きやすい世界をつくらしていきたいです。

○二中3年生：Jさん

講演は初めて知ることばかりで、とても貴重な時間になりました。深海生物は工夫して生きているので、共存するためにできることをしていきたいなと思います。プラスチック問題については、流出したプラスチック 2500万トンのうち99%が行方不明ということ、そして日本の周辺海にたくさんあるということにとても驚きました。プラスチック汚染による生物や生態系への影響を

考えて行動し、自然のバランスを崩さないように、まずは自分にできることから取り組んでいきたいと思います。

○二中3年生：Kさん

プラスチックが、自分たちの生活が危ないところまで来ていることを知り、とてもびっくりしました。2500万トンものプラスチックが海に流出しており、そのうち1%（約26万トン）しか確認されていないことが、一番の驚きと同時に恐怖も感じました。僕は、まだ海にごみを捨てたことは1回もありませんが、大田市の海にもたくさんのゴミが流れていたり、落ちているのをよく見つけます。僕は海のボランティア活動に参加しているので、今までよりももっとたくさんゴミを拾おうと思いました。

○二中3年生：Lさん

深海はとても面白くて、興味深いと思いました。今まで理科の授業では、光合成など太陽の光で育つ生物しか習わなかったので、地球には2つのタイプの生態系があると知り、とても驚きました。共通していることは「食物連鎖」だということもわかりました。私はこれまで深海生物は関りがなかったけど、すし屋で深海魚を食べていたり、私たちのプラスチックゴミが深海生物に影響を与えていたり、人は深海生物と意外に関わっているんだなと思いました。私たち人間が、正しい対策をとることが大切だと思いました。

○二中3年生：Mさん

講演を聞いて、難しい問題が多いと思いました。今日聞いたなかで一番興味を持ったのはホネクイハナムシです。その生物について聞いているとき、新しいものを知っていく感覚で面白かったです。潜水艦の窓がアクリル板なのが、個人的に気になる点です。アクリル板は溶けるのに、なぜわざわざ使うんだろうと思い、水圧の問題なのかなと考えました。私は将来、藤倉さんのような職業につきたいと思っているので、話を聞き、すごくワクワクしました。自分が好きな仕事をすることは楽しいと思います。

○二中3年生：Nさん

講演会を通して、深海魚やプラスチック問題についてしっかり学ぶことができました。私の家は海が近くにありますが、海洋生物がどんな生き物か詳しく知りませんでした。人は薬やきれいな水など、ほかの生物を利用しているので、生物の多様性を守ることが重要だなと思いました。人の繁栄には生態系、深海生物を理解したうえで、自然のバランスを崩さずに自然の仕組みに則った行動を選べるようにすることが大切だなと思いました。プラスチック問題について学んだことは、プラスチックは分解しにくいし、小さくなればなるほど多くの生物へ影響を与えてしまうということがわかりました。

●藤倉講師

深海の研究成果を一般の方に紹介できる機会は少なく、このような講演の場で皆さんにお示しができることは、私にとっても、とてもうれしく思います。講演の機会をいただき深謝いたします。



【質疑の様子】